

## 救命救急の現状と課題

### 昨年の活動状況

昨年、島田市消防本部の救急車が出動した件数は3972件。このうち91%が島田市内、8.8%が川根本町、0.2%が管轄外への出動でした。

搬送した人員は3596人で、これは1日当たり約9.9人の搬送となります。市民の割合を見ると、1年間に約26人に1人が、救急車を利用したことになります。

### 迅速な手当がカギ

救急隊が行った応急処置の種類を見ると、人工呼吸が61件、心肺蘇生（胸骨圧迫）が125件、AED（自動体外式除細動器）の使用も16件ありました。

119番通報を受けてから救急車が現場に到着するまでに要する時間は、昨年の平均で約7分。もしも、傷病者に救命手当が何も施されなかった場合の死亡率は、心臓停止後約3分、呼吸停止後約10分で50%に達してしまいます。

このことから、現場に居合わせた人の迅速な手当が、救命に重要であることが伺えます。



# いのちのタスキ



そのとき、あなたは「命のリレー」の走者になれますか。

☎島田市消防本部 ☎ 37-0119

### 命のリレースタート

#### Check Point 1 周囲の安全確認

発見した傷病者（倒れた人）が道路などに倒れている場合は、安全な場所に移すなどします。また、大量出血の有無も確認します。



#### 反応の確認

「大丈夫ですか」または「もしもし」と耳元で大声で呼び掛けながら、肩を軽くたたき、反応の有無を確認します。

ない

ある

傷病者の反応（意識）があれば、訴えを聞いて、必要な応急手当を行います。



#### Check Point 3 助けを呼ぶ

傷病者の反応がなければ、大声で助けを呼び、協力者が来たら「119番通報」と「AEDの用意」を要請します（協力者がいない場合は通報を優先）。

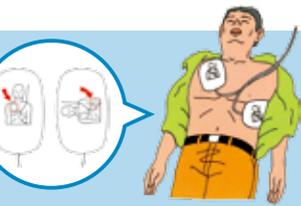
### 救急隊に「命のタスキ」をつなぐ

AEDは2分後に再解析を始めます。次のショックもしくは救急隊が到着するまで、人工呼吸と胸骨圧迫を続けます。



#### Check Point 10 電気ショック

「体に触れないでください」とメッセージが流れ、心電図の解析が始まります。この際「みんな離れて！」と周囲に注意を促します。「ショックが必要です…充電中です…ショックボタンを押してください」とメッセージが流れたら、ボタンを押します。



#### Check Point 9 電極パッドを貼る

傷病者の胸部を裸にし、電極パッドを貼り付けます（最初にケーブルを本体に接続する機種もあります）。成人の貼付位置は、パッドに絵で表示されています。

救急車が来るまで「**あなたができること**」

「119番通報↓応急手当↓高度な救急処置（救急隊）↓高度な救命医療（医師）」をうまくつなげて命を助けることが、「命のリレー」です。

はじめの二つの要素は、居合わせた「あなた」の手に懸かっています。命のリレーをスタートさせるため、少しの勇気と正しい応急手当の知識を持つてください。市では、応急手当やAEDの操作方法を含めた救命処置の講習会を開催しています。詳しくは、市消防本部までお問い合わせください。

一方、昨年の救急要請を事故種別で見ると、全体の6割を占める急病のうち、半数は自力で病院へ行ける程度の軽症者でした。タクシー代わりの救急要請が増える、命の危険にさらされている重症者の搬送に支障を来します。「その1秒に救われる命がある」ことを意識し、救急車の適正利用にご協力ください。



島田消防署 救急係長  
ほしかわとしや  
堀川智也 司令

# つなげてくたさい



9月9日は「救急の日」、9月3日～9日は「救急医療週間」です。

